

なぜ新海誠監督の作品にはよくスーパーカブが登場するのですか？

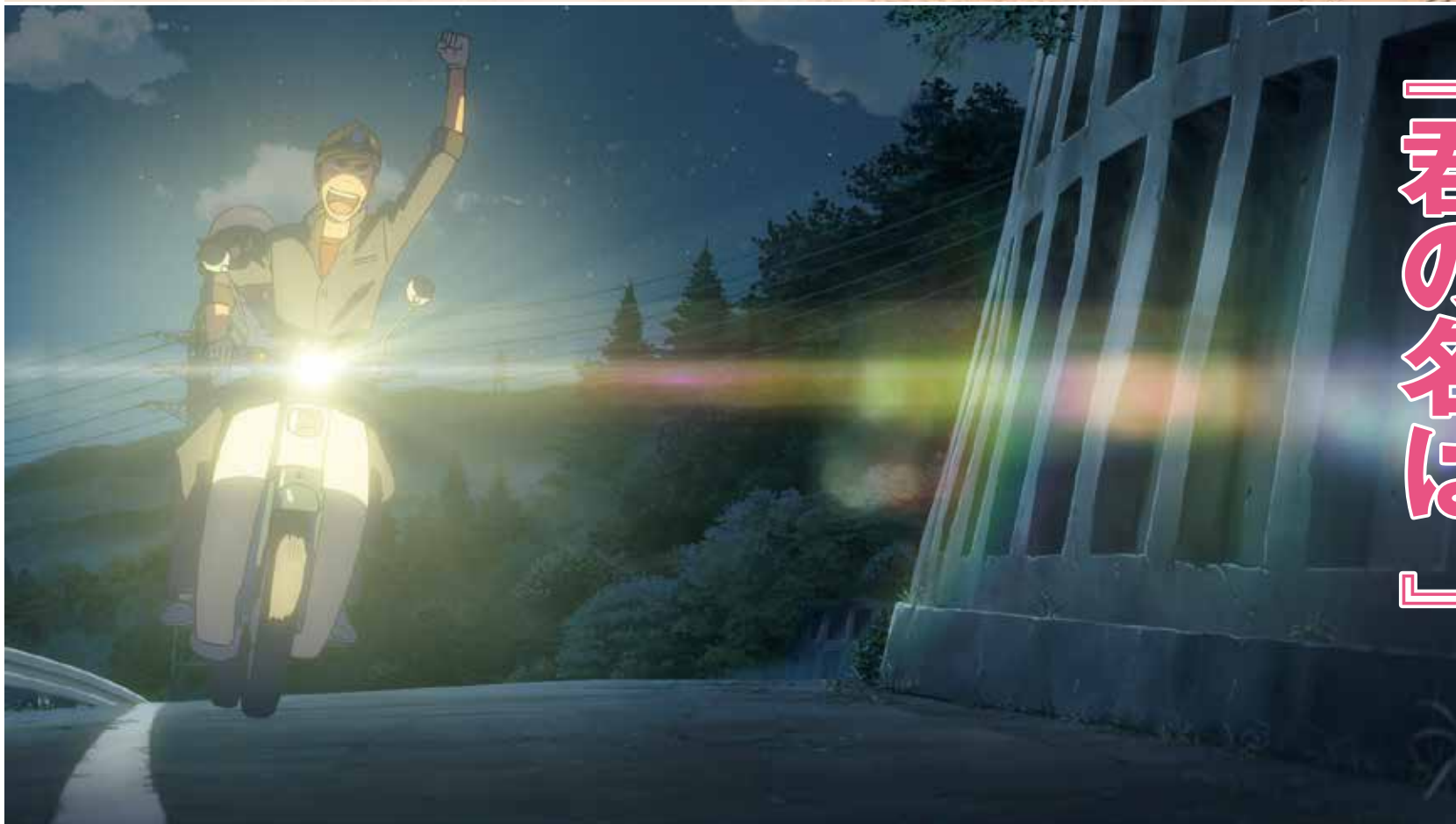


# 『秒速5センチメートル』



『秒速5センチメートル』  
2007年公開。  
3話からなる連作で、2話目の「コスモナウト」の舞台は種子島の中種子島の中種子町。高校生である主人公たちは、モデルとなった現実の高校生たちと同じように、スーパーカブで通学する。風景のモデルとなった島内各地は、日本だけではなく海外からもファンが訪れる“聖地”となっている。

©Makoto Shinkai / CoMix Wave Films



# 『君の名は。』



『君の名は。』  
2016年公開。  
世界100カ国以上で公開され、海外での興行収入合計は、日本映画史上最高を記録。舞台は、東京と山深い岐阜県糸守町（架空の町）。物語の終盤、主人公 宮水三葉の同級生 勅使河原克彦（テッシー）が、町の住民を救おうと避難計画を実行する際、三葉を乗せて、スーパーカブで走る。

©2016『君の名は。』製作委員会

スーパーカブが登場する理由は



なぜ新海誠監督の作品にはよくスーパーカブが登場するのですか？



### 『秒速5センチメートル』

『秒速5センチメートル』の第2話「コスモナウト」では、種子島の高校に転校してきた主人公 遠野貴樹を、彼に想いを寄せる同級生 澄田花苗の視点から描く。実際の種子島の多くの高校生と同様、スーパーカブで通学する2人の様子が描かれる。



川口 そういえば『秒速』ではちゃんとホンダさんに許可申請したんですよ。  
スルッとOKくれて、嬉しかったです。カブの普遍的で、懐かしいような、人を感じるデザインが、僕は好きなんです。それに、新海の作品にとても似合うと思っています。新海も脚本の時点で、スクーターではなく「カブ」って書いていますからね。

『君の名は。』のワンシーン。物語の終盤、町の危機に際し、主人公 宮水三葉は、同級生 勅使河原克彦（テッシー）とともに、町の住民を救おうとする。テッシーは、三葉をスーパーカブの後ろに乗せて、奔走する。

### 『君の名は。』



新海誠監督作品『秒速5センチメートル』『君の名は。』両作品のプロデューサー川口さんに伺いました。

## 『君の名は。』のカブ、実は僕のカブなんです（笑）。



川口 『秒速5センチメートル』の2話目ではロケットの打上げが話に絡むので、新海と、その舞台、種子島のロケハンに行っただんです。そしたら種子島の高校生が制服を着て、みんなカブに乗っている。もうそれで、主人公たちがカブに乗ることは必然になったんです。ちなみにステップワゴンも登場しますが、あれもリアルに取材時に、サーフィン部の顧問の先生が乗っていたクルマなんですよ。

川口 『君の名は。』ではテッシーのカブが登場しますが、実はあれは、僕のカブ（笑）。新海もカブ好きですが、僕は今もカブ90に乗っています。その愛車が、テッシーのカブのベースに。2人乗りするから、ちゃんとイエローナンバーです。音もちゃんとそのカブから録っています。



川口典孝（かわぐち・のりたか）

1969年生まれ。アニメーション映画の企画・製作・配給を行う（株）コミックス・ウェーブ・フィルム、代表取締役。新海誠監督の商業デビュー作『ほしのこえ』から新海作品を支える。スーパーカブ90をはじめ、CB750F、CL90も所有する大のバイク好き。



川口 今、映画祭とかで世界中に行くとき、カブがいろいろな街で走っている。すごいなと思います。僕は若い時、バックパックの旅でもアジアの各国で、生活を支えているカブを見て、スゲーって思いました。日本から世界に飛び出した本田宗一郎、スゲーって思いながら旅していましたね。

川口 我々の作品の世界は、ほとんどCGに。でも、僕は鉛筆やタブレットの手で描くアニメ、2Dで世界と勝負していきたい。そこは、ホンダのカブに似ているように思っています。時代が変わり技術が進んでも、変わらない良さが、人にあたたいものを残したいという想いは、カブと共通するんじゃないかな。